

松江3M(Matsue-Mobility-Management)－「ひと」「まち」「地球」の縁結び

松江市 地域・交通政策課、都市計画課

国土交通省中国地方整備局松江国道事務所 調査設計課

1. 松江市の概要

松江市は山陰のほぼ中央に位置する島根県の県庁所在地で、宍道湖・中海を抱く風光明媚な水の都です。古代出雲文化圏の中心地で、江戸時代には松平家が10代に渡り統治した城下町であり、2007年には開府400年を迎えました。平成17年に周辺の7町村と合併し、面積は約530km²、人口は約20万人の街です。

2. 松江市の交通とまちづくり

松江市の公共交通はJR、一畑電車、一畑バス、市営バス、および郊外部のコミュニティバスで構成され、JR松江駅を中心にバスを主体とした公共交通ネットワークが形成されています。近年、バス利用者数は減少の一途をたどり、さらに郊外の不採算路線を中心に路線の廃止や減便が続く、このような状況がさらにバス利用客の減少を招く結果となっています。

しかしながら、バスは、市民生活に密着した公共交通手段であり、高齢者の日常の買い物・通院や学生の通学にとって欠かせないものとなっています。高齢社会の進展、厳しい財政事情、自動車交通量の増加が進む中、自動車利用の抑制やバスを中心とした公共交通体系の維持は、喫緊の課題となっています。さらに、市の主要産業である観光の振興や中心市街地の活性化、地球規模で増加するCO₂の抑制対策などの面でも公共交通は重要な役割を担うものと期待されます。

松江市は、中心市街地と郊外の生活拠点に暮らしの機能を集めながら、お互いを便利な『公共交通の軸』で結ぶまちづくりを目指しています。これらのまちづくりに向けた検討は、旧松江市が平成15年度に「今後の松江市の交通体系のあり方についての提言」を行ったことに始まります。この提言では、多くの住民が生活する産業・文化都市という側面と、観光都市という側面を調和させながら、「自動車利用の抑制と歩行者と公共交通優先のまちづくり」を進めることを主眼に、「中心市街地の交通環境改善」、「バスの路線再編と利用促進」、「コミュニティバス運行」、「新たな交通システム導入の可能性」、「中期的な道路整備のあり方」を重点施策として掲げました。これを受けて、平成16年度に実施した松江市公共交通住民意識調査を経て、主に公共交通の利用促進等でソフト施策の重点的推進を図る「松江市公共交通体系整備計画」を平成18年度に策定しました。計画策定にあたっては、国・県・市・交通事業者や市民からなる委員会により、数十回にも及ぶ精力的な議論により計画が協働で練り上げられ、その

▼松江市の将来都市像



計画策定にあたっては、国・県・市・交通事業者や市民からなる委員会により、数十回にも及ぶ精力的な議論により計画が協働で練り上げられ、その

後の速やかな施策展開につながりました。

また、「松江市公共交通利用促進市民会議」が平成20年度に設立し、翌年度からMM事業の実施主体として、中心的な役割を担うようになってきました。

3. 平成21年度の社会実験の取り組み

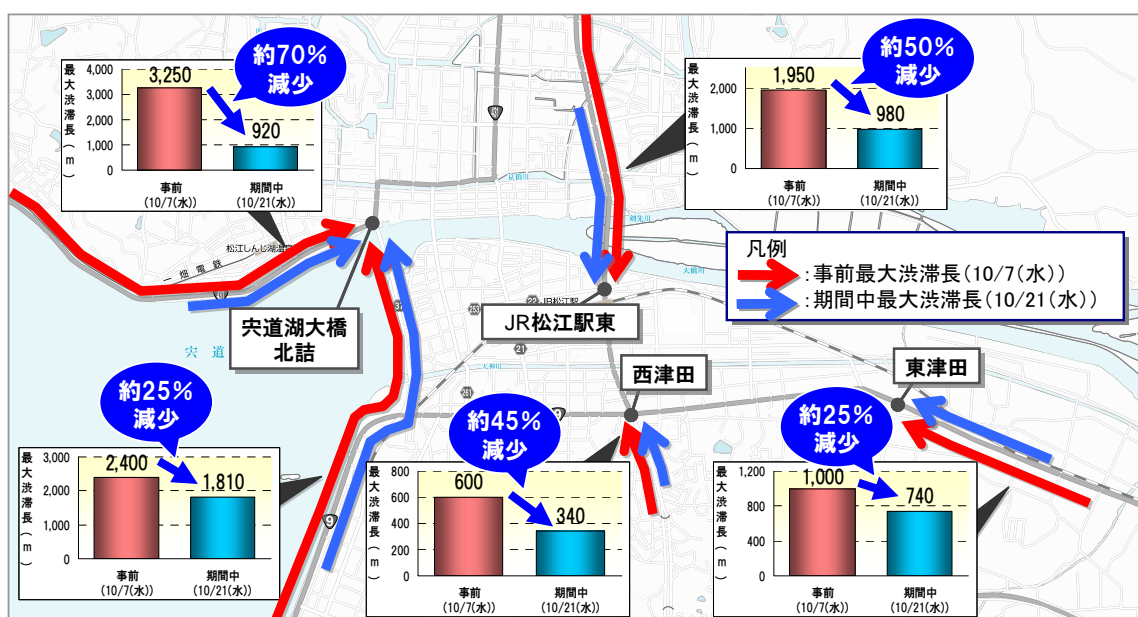
「今後の松江市の交通体系のあり方についての提言」のうち、「中心市街地の交通環境改善」、「中期的な道路整備のあり方」、「新たな交通システム導入の可能性」については、中長期的な期間での都市計画との連動を念頭において位置づけています。平成21年度には将来の公共交通優先のまちづくりにつながる交通体系の可能性について検証するため、さまざまな交通社会実験や意識調査・交通量調査を実施しました。

(1) 松江市一斉ノーマイカーウィーク

自動車利用によるCO₂排出量の増加や慢性的な渋滞、公共交通利用者の減少などが深刻化しています。企業や市民の皆様にも過度なクルマ利用を見直すきっかけづくりとして、山陰初となる「松江市一斉ノーマイカーウィーク」を、10月19日（月）～23日（金）にかけて実施しました。

雨が多く、自動車への依存度が非常に高い地域特性に反し、多くの市民・事業所のみなさまの協力で、期間中約100社、5日間延べ約3,200人の方の参加がありました。これにより市内全域で軒並み渋滞が減少し、自動車利用をちょっと控えることで、大きな渋滞緩和効果が得られることを実証しました。また、渋滞の大幅な削減や、バスの乗客数や自転車利用者数の増加、CO₂排出量の削減に繋がり、ノーマイカーウィーク後に実施した事業所アンケートでは、ほとんどの事業所からクルマを控える取り組みを継続していきたいという意向が得られるといった意識変容の効果もありました。

▼松江市一斉ノーマイカーウィークでの渋滞状況の比較(朝ピーク時の最大渋滞長)



(2) 塩見縄手のあり方に関するワンショット型アンケート調査

「塩見縄手」は松江城を取り囲む濠沿いに並び武家屋敷の前に広がる通りです。「塩見縄手」は地域住民・観光客等の歩行者が多い一方、自動車交通量も多く、安心して歩けないという状況があります。誰もが安心して通行できる塩見縄手にするため、GWの一方通行規制に伴う意識調査・交通量調査を行いました。

塩見縄手の一方通行規制によって、規制区間内のバスの運行や周辺の自動車交通が受ける影響は小さく、また、この交通規制に対して、地域住民・来訪者・バス運転手ともに概ね賛成されていることがわかりました。

ただし、規制期間や手法等においてはまだ課題があり、今後、歩行者と公共交通優先のみちづくりを実現するため、さらなる社会実験を重ね、検討をしていく予定です。

▼塩見縄手と武家屋敷



(3) 大橋通り賑わい交通社会実験(トランジットモール導入)

賑わいのあるまちなかに誰でも来やすく、まちなかでの移動も便利な魅力あるまちづくりにつながる交通体系を検討するため、大橋通りを中心市街地における“公共交通の軸”と見立てて大橋通りをトランジットモールにした交通社会実験を実施しました。

沿道に賑わいを出すため、人通りが多くなる近隣商店街のイベント(天神市・こっころサンデー)等に合わせて、実験を実施しました。

トランジットモールによって、大橋通りの歩行者・自転車・バス利用者が増え、さらにCO₂排出量も減少するなど様々な効果を得ることが出来ました。また、トランジットモールが周辺交通に与える影響も小さいことがわかりました。今後、地域住民の皆様との連携を十分に図りながら、検討を進めていく必要があります。

▼実験内容と実験区間



4. おわりに

松江市では自動車利用を抑制し、利便性が高く環境にも優しい公共交通機関へ転換するまちづくりを目指し、公共交通利用促進と都市計画と連携させ、関係機関や市民との協働により交通まちづくりを進めています。交通まちづくりのその他の取り組みとして、使用済みバスカー

ドを協賛店舗に持参すると特典が受けられる「とってもお得バスカード事業」や、松江市のバスマップ「どこでもバスブック」の転入者への無料配布など、様々な取り組みを行っています。今後も様々なトライアルを繰り返していきながら、はるかな歴史・水と緑を大切に、人がいきいきと活気あふれる松江市を目指していきたいと考えております。